

2025年2月1日
第584号
(毎月1日発行)

咲いたネット
URL :
http://www.saitanet.or.jp
Eメール :
saita@saitanet.or.jp



発行所
埼玉県労働組合連合会
〒330-0063
埼玉県さいたま市浦和区高砂
3-10-11 第一木村ビル
TEL 048-838-0771
FAX 048-838-0775
編集発行人
埼玉県労働組合連合会
【定価】1部50円
(組合員の購読料は組合費に含む)

25春闘方針を確認 埼労連単産・地域代表者会議



単産・地域から全体70人が参加

埼労連は、1月11日(土)の午前10時から、こくみん共済coop会議室で2025年の単産地域代表者会議を開催し、終了後の午後1時30分から、6階ホールで新春旗びらきを開催しました。
今回は、旗びらきの会場が、さいたま新都心にあるブリランテ武蔵野というところで、こくみん共済coopの会議室を借りての代表者会議となりました。
当日は現地参加のみで、14単産32人・24地域組織33人の代表・幹事会・事務局

など合わせて70人が参加しました。
冒頭、藤田議長のあいさつでは、格差と分断が進む状況の中で、労働組合の役割がより大きくなっていること、戦後80年の今年は、平和を追求する取り組みも重要になること、防衛費の大幅増額ではなく、国民生活第一の政治にするためにも、25春闘勝利、組織の強化・拡大を成功させよう」と訴えました。

続いて空戸事務局長から春闘方針の提案があり、改めて24春闘でつくり出した教訓に学ぶこと、単産と地域が一体となって前進している経験なども紹介し、引き続き物価高騰のもとで、「最低生計費試算調査」結果を生かし、生活できる賃金を追求するため、ストライキを背景にした交渉を構え、要求を勝ち取るためにすべての組合員が団結して闘うことで、多くの労働者に労働組合の姿をみせていくことを強調して訴えました。

提案後の討論では、各組織から発言があり、春日部労連から、会計年度任用職員の時給が150円上がったことを新春宣伝で訴え、市民の高い関心があったことが報告され、自治労連からは、最低生



藤田議長あいさつ

計費試算調査に取り組んできたことで、若い仲間の確信が高まり、自らが職場の学習会の講師を務めるという変化が生まれていることが報告されました。飯能日高地労連からは、次世代組合員の結集について、「家族も参加できる取り組み」を意識し、企画第3弾の「池袋謎解きツアー」について報告があるなど、方針を豊かに補強する発言をした各組織から、組合員一人一人の要求を大切にしていくため、25春闘での大幅賃上げなどを実現する決意が報告されました。
討論の後、空戸事務局長のまとめを受け、春闘方針案・討論のまとめを全体で確認し、終了となりました。
(2面に旗びらきの様子)

* 紙面から *

- | | | | |
|-----------------|------|-------------|------|
| ■ 単産地位代表者会議 | (1面) | ■ 新春宣伝 | (4面) |
| ■ 新春旗びらき | (2面) | ■ JMITU討論集会 | (5面) |
| ■ 労働者福祉レクリエーション | (3面) | ■ 埼労共のページ | (8面) |

2025年 新春旗びらき

単産・地域代表者会議終了後の午後1時30分から、プリランテ武蔵野(さいたま新都心)で2025年の埼玉労連新春旗びらきを開催しました。

今年の旗びらきは、従来の共済会館ではなく、はじめてプリラン

テを会場に行いました。

冒頭のオープニング企画として、太鼓集団「響」による八丈太鼓が披露され、竹嶋順二副議長と柴田久美子幹事の司会で始まりました。

オープニング終了後、藤田省吾

議長が年頭に当たってのあいさつを行いました。

格差と分断が拡大し、



鏡びらきでお祝い

物価高騰で多くの国民が困窮していること、石破政権の軍事国家づくりへの傾倒のもと、戦後80年の今年、平和への希求と労働組合の組織強化の必要性について言及し、「25春闘での大奮闘とあわせて、労働組合として政治を変えていく取り組みを進めて、組織を強く、大きく」と力強く訴えました。

ついでに、その後、伊藤岳参議院議員(伊藤はつみ埼玉県議会議員を紹介)、全労連・石川副議長、頼高英雄蔵市長、埼玉弁護士会の上田副会長、オール埼玉実行委員会の小出実行委員長、谷内中央労働金庫常務理事埼玉県本部担当(こくみん共済coop埼玉推進本部の金井本部長、中央労金の久光営業担当部長、埼玉労協の近藤理事長を紹介)があいさつしました。



響(ひびき)の踊り



3本締めで閉会

うこともあり、参加した仲間や来賓の方々の歓談にも華が咲いていました。

しばらく歓談したあと、オープニングで太鼓を披露してくれた響による太鼓に合わせた踊り「御神楽」の演目で会場の雰囲気も盛り上がりました。

最後に、前島英男副議長の閉会あいさつで、「今年一年、埼玉連のさらなる発展と運動の前進で社会を変えていこう」と確認し、お開きとなりました。



谷内さん

小出さん

上田さん

頼高市長

石川さん

伊藤議員

大野知事

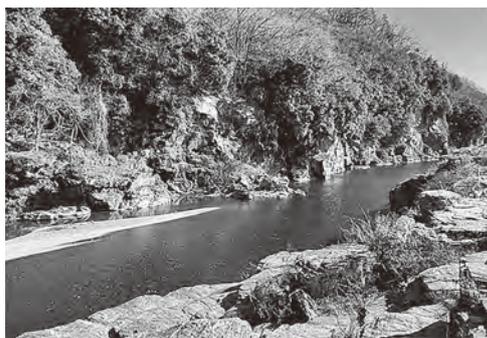
秩父・長瀨めぐりで交流 労働者福祉レクリエーション企画

1月13日(月・祝)、埼玉労働者福祉対策委員会主催の「秩父・長瀨酒蔵めぐり」に9人が参加し交流しました。この企画は、今年度取り組む「労働者福祉レクリエーション」に向けてブレ企画第一弾として準備されたものです。

長瀨駅に集合後、『長瀨蔵』へ徒歩で移動。生酒などを試飲し、案内された蔵の中で酒造りの映像を観ました。お土産を買いこんだのち、長瀨と言えば「岩畳」と駅前へ再度移動し見学。昼食は岩畳



9人で散策



岩畳を見学

近くで蕎麦のおいしい店に入り、交流しました。その後、秩父の『武甲酒造』にも立ち寄って試飲し、商店街などをまわって秩父駅の隣の「御花畑」駅で解散しました。

散策をするにはちょうど良い人数で天気も良く、「久しぶりに楽しめた」との声がありました。レクリエーション本番は7〜8月頃、家族で参加できる楽しいものを考えようと相談し、第二弾のブレ企画とあわせ、次の委員会から内容を検討していきます。

平和学習ツアー（比企労連）

比企労連は、12月22日(日)に平和学習ツアーとして、「横須賀軍港巡りと旧横浜船渠第二ドック」を企画しました。

前日になってキャンセルがあったことから参加者は11名とやや少なめでしたが天候にも恵まれ元気に行ってきました。

横浜船渠第二ドックは、ランドマークタワーの真下にあり総御影石づくり、ここで明治以降、船が修理されていたことがよくわかりました。横須賀軍港に向かうバス



教育会館にて

労基研報告を学習（建交労）

建交労合同支部が1月18日(土)、埼玉教育会館で拡大執行委員会を開催しました。

会議の冒頭、埼玉中央法律事務所の小内克浩弁護士による特別講演をいただきました。「労基研報告」に見る今後の労働法制の動きと題して、労働基準法の適用除外(デロゲーション)によって経済界の意向に沿った改悪がされようとしていることを学びました。

の中で、神奈川県に多くの米軍基地がおかれていることや軍港内の施設、イージス艦、原子力空母などについて学習してから、軍港巡りを行いました。

参加者からは、「こんなものにお金を使って戦争の準備をするよりも平和を外交で守るべき」「今の戦争が新兵器によってより殺傷力が強くなり怖さを感じた」などの感想がありました。イージス艦、掃海艇(プラスチックづくり)潜水艦、原子力空母ジョージ



横須賀軍港の空母

・ワシントンも停泊しており、黒塗りの目立たない色彩はまさに「戦争の道具」を意識させられるものでした。

後半は、支部の春闘方針の確認と各分会からこれからの取り組み状況について報告がありました。最賃が引き上がると、経営状況が厳しいなか、会社がパートを雇いきれなくなる状況があり、中小企業を直接支援する政策と一緒に実施する必要があると思われました。全労連の進めている職場総点検行動、36協定についてのアンケートの取り組みが進んでいないので、改めて各分会で取り組むことを確認しました。

25春闘のスタートを宣言！ 新春いつせいの宣伝を実施

埼労連・埼玉春闘共闘は、1月15日（水）を中心に、県内各地の自治体前と駅頭宣伝を呼びかけて、25春闘スタート宣伝と位置づけて行いました。

引き続き物価の高騰に加え、補助金打ち切りの影響で値上がりが予想されているガソリン代の高騰などから生活を守るためにも「労働組合の姿を見せる」取り組みと

して行いました。宣伝に取り組んだところからは様々な感想が寄せられています。

秩労連は、1週早い10日（金）の朝、秩父市役所前で自治体門前宣伝を実施しました。受け取りは良く、15人が参加してくれています。

三郷市労連は、三郷中央駅で宣伝を行い、学校給食無償化も呼びかけました。普段の宣伝と違い19人が参加。



県庁前宣伝には33人が参加

さいたま地区労は朝のさいたま市役所門前宣伝に14人、夕方の大宮駅西口デッキ宣伝には12人が参加して、大宮駅では700枚近いビラを配布し、参加者からも驚きの反応が寄せられています。
深谷寄居地労連は、深谷市役所前で宣伝、こちらも9人で400



春日部労連は独自の横断幕をかがけて

枚のビラを配布し「参加者に若い人が多く、受け取りも良かった」と報告が来ています。

本庄児玉地域労連は、本庄市役所前と本庄駅で宣伝、市役所前宣伝では20枚のビラを配布しています。

比企労連は、朝は東松山市役所と小川町役場前で宣伝、夕方は東松山駅で宣伝、小川町役場前宣伝では「受け取りも良く、ほとんどの人が受け取った」と報告がきています。

春日部労連は、春日部市役所前と春日部駅西口で宣伝を実施、朝は18人、夕方は15人が参加し、駅頭での宣伝は独自に作成した横断幕が人目をひいていました。

蓮田地域労連は、蓮田市役所と蓮田駅で宣伝、蓮田市役所では受け取りは良かったが、拡声器の使用は当局から断られ、肉声での宣伝でした。

鴻北労連 ニュース

2025年1月発行 鴻北東北地域労働組合連合会

25新春宣伝で大幅賃上げを訴える！

大幅賃上げで生活保障と地域の活性化を訴える！

1月15日夕方に北本駅前で、鴻北東北地域労働組合連合会（鴻北労連）が「最低賃金を1,500円に引き上げ、労働条件の改善で生活を守ろう」「労働組合で困難なことは解決は労連にと新春スタート宣伝行動を組織しました。寒風の中、チラシとマイクを配布し、全労働者の大幅な賃金引き上げ、職場環境の活性化などを訴えました。」

鴻北労連の宣伝行動には、加藤4団体の11人が参加しました。「大企業優先の政治を転換し、大規模な賃金を勝ち取ろう」などの訴えや「30歳未満を育てよう」などの訴えが聞かれました。鴻北労連の宣伝行動は年明けに引き続き行われました。

自治体で働く人の賃上げで住民サービスの向上を！

1月15日の早朝には、鴻北労連のメンバーが、25春闘スタート宣言を行いました。

鴻北労連のメンバーは、駅前で労働者の賃上げや労働条件の改善を訴えるための宣伝を行いました。各自治体の労働者の賃上げや労働条件の改善を訴えるための宣伝を行いました。

25新春開き・学習会 1月27日19:00～ クレアこうのす大会

鴻北労連はニュース発行

所沢地区労は、朝は所沢市役所前、夕方は所沢駅で宣伝を行い、地区労の宣伝から続けて建交労も所沢駅で宣伝を実施。春闘での賃上げを訴えました。

「例年以上に受け取りがいい」と予定時間前にビラがなくなりました。このほかにも、県内各地29自治体、26駅頭で宣伝が取り組まれ、春闘のスタートをアピールしています。



浦和駅宣伝には17人が参加

25春闘で「生活できる賃金」に！ JMITUが春闘討論集会

JMITU埼玉地本は1月18日(土)～19日(日)に春闘泊り込み討論集会を鬼怒川温泉の公民館とホテルニューさくらで行いました。中央本部から笠瀬書記長、生熊前顧問、埼労連から龍尾幹事を招き、総勢14人の参加でした。

18日は千葉地方本部もオンラインで参加し、春闘補強方針の読み合わせ、ポイントとなる部分を笠瀬書記長が説明、続いて、埼労連・龍尾幹事から最低生計費試算調査結果(若年単身者)の報告がありました。人間らしい生活をする

ために最低でも約27万5000円必要であり、物価高騰などの影響で食費が1日約1700円かかっていることや、最近では男性も化粧品を使用していることなど、興味深い内容でした。

19日は、背景資本や親会社がある支部、組合員が少ない支部でどう春闘に臨むかが討論となりました。組合として内外に見える活動を、世論形成や、平日頃から対話を積み重ねていくことが重要であり、たたかい方次第では、親会社を超える回答を引き出した前例が日信工業支部であり、勇気づけられました。

1泊で討論を深める



最後に生熊前顧問が25春闘情勢にふれ、まだ労働者側に有利な展開ではあるが労働組合として組織拡大とストライキ活動ができるかどうかにかかっていると提起、25春闘をそれぞれの持てる力を出し、物価高騰に負けない取り組みをしていくことを確認して、討論集会を終えました。

(JMITU埼玉地本発)

教職員の増員と長時間労働解消を 埼教組・埼高教が宣伝

埼教組と埼高教は、1月15日の全国一斉定時アクションのプレ宣伝として、1月11日(土)夕方、浦和駅東口で合同宣伝をしました。

宣伝には30人を超える組合員が参加し、教員の増員と長時間労働の解消を訴えました。

訴えでは、代替者が見つからず「ごめんなさい」と産休に入る教職員や長期間にわたって自習になり定期テストもままならない中学校の実情など学校現場からの悲痛な声や、教職調整額は段階的に引

き上げても残業代不支給に踏み込まない政府への批判が出されました。多岐に渡る教職員からの発言に、多くのみなさんが足を止めてくれました。400枚ほど準備したチラシは、30分ほどでなくなりました。

取材に来た東京新聞は「国は新年度予算案で、公立学校の教員に残業代を支払わない代わりに、基本給に上乗せして支給する『教職調整額』の段階的引き上げを打ち出した。だが、残業代不支給の根拠となる教員給与特別措置法(給

デイケア存続もとめ(医労連)

埼玉メデイカルセンターは昨年9月24日、職員や利用者への事前の説明がないなか、25年3月末をもって付属老健のデイケアを廃止することを明らかにしました。この問題の背景には、経営の厳しさや介護職員不足があり、機構本部の不採算部門廃止の方針がありま

す。仮にそうでも、公的な医療機関として、真つ先に撤退するなど、許されないことです。

埼玉医労連・JCHO労組埼玉支部は、デイケア存続のため、署名運動を行うことにし、12月24日に埼玉県庁で記者会見を行いました。組合側は、「高齢化が進みデイケアサービスの需要が増えることが予測されるさいたま市で、事

業を廃止することは地域社会に深刻な影響を及ぼす可能性があるとして、再検討すべき」と主張しました。

(埼玉医労連発)



先生がマイクで訴え

特法)改正には踏み込みます、抜本的な働き方改革の議論も進んでいない」などと、この問題を取り上げました。

(埼教組発)

働かせほうだいの職場改善へ 埼高教が定時アクション

埼高教は昨年に続き、全国の仲間とともに「1・15一斉定時アクション」に取り組みました。

目的は2つ。今通常国会上げが想定される給特法「改正」についての学習と話し合い(その中身はひどい内容です)。もう1つは、忙しい日々だからこそ、仲間同士で「つどい合い・語り合い」ましよう、ということですよ。

当日は午後5時20分〜5時30分までの10分間、埼高教本部と職場がオンラインでつながって交流。その後、埼高教作成の学習動画の視聴。全県で50近い職場、200人以上が参加。職場ごとに「組合員でない仲間も多数参加」「ちよっと高めのお菓子を用意して交流」がありました。

校務の都合でその時間集まれなかった職場でも「定時アクション」の意義を訴える『埼高教新聞かわら版』を配布し、職員室に「ご自由にお取りください」のお菓子を

意した分会もあります。

映し出された画面は笑顔いっぱい！それだけでみんなが元気に。仲間の団結を深め、職場に「埼高教」の存在を大いにアピールし、X(旧ツイッター)にも投稿しています。「#このままでは学校がもたない」「#0115定時アクション」「#せんせいふやそう」。

ぜひご覧ください！

(埼高教発)



笑顔でスクリーンショット

2024年は14人が受講 全労連わくわく講座

全労連の初級教育制度「わくわく講座」について、2024年度はコープネットグループ労組から14人が受講しました。職場が離れていることもあって基本は独学で学習を重ね、12月14日(土)夕方から修了式を兼ねた集団学習を行いました。

修了式では、主催した埼労連から学習教育担当の山崎幹事が学習の大切さとももの見方考え方について、労働運動に活かすための問題提起で学習の振り返りの講義を行い、その後、質疑と修了テストの対応についての確認を行って修了証・記念品の授与と受講者一人ひとりが今回受講した理由と、取り組んでみた感想を出し合い交流しました。

感想交流の場はコープネットグループ労組のわくわく講座責任者の清水さんの司会のもと、食事をとりながら気楽な雰囲気できれいあいと学習による気付きについて共有し、学んで要求運動につなげていくことを再確認するものと

なりました。受講者からは、「労働組合の基礎を学ぶものとして、テキストはマンガやコラムがあつてわかりやすかつた」、「一人だとなかなかできないが、集団で取り組むことで学ぶことができよかつた」、「組合の企画にいろいろ参加しているうちに学んでみたいと思つて参加した」、「わくわく講座は労働組合学習の入門で楽だと思つて受講したが、初めて知ることあつてよかつた」、「疲れているときや忙しいときに動画は見て聞いてすーと入つてきてわかりやすかつた」、「勤通大はへビー

なので、最初は『わくわく講座』とてもいい。連合も同様なものがあれば比較したい」、「労組の在り方を学べた。もっと深めたい」などなど、得るものがたくさんあつた

「全労連わくわく講座」でした。なお、埼労連は、第8期組織拡大中期計画で、新たに全労連わくわく講座を活用した「地域労働学校」の開催を提起しています。単産・地域組織が連携し、2025年に開校できるよう呼びかけています。



オンラインもつないで修了式

共済事業推進へ

「自治労連」「共済カフェ」

自治労連埼玉県本部は共済事業の推進に向けて、様々な情報交換と交流を行う「共済カフェ」を始めています。

「学習が足りていないと感じる」「実務を担うなかで不安がある」「情報交換は大事。情報をどう伝えていくかが課題」など、参考となる意見が出されました。

これまでの組合活動では闘争課題がどうしても中心となり、共済が後回しになってしまいがちでしたが、改めて組合活動の中心に労働組合の原点である「共済」をしっかりと位置づける方針です。

第1回は10月17日午後オンラインで開催し8単組の書記が参加。まずはフリーな意見交換を行い、

第2回は12月12日夜、1時間限定オンライン開催。課題であった単組役員を意識づけをねらいに

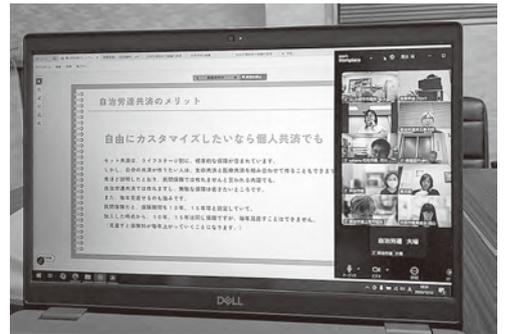
「自治労連共済に変えたら掛金が年間10万円節約できた話」をテーマに民間保険と共済との比較を紹介し、共済の優位性を紹介しました。単組役員の参加は少なかつた

食料自給率の向上めざし

埼玉連も参加している「埼玉食健連」は、12月13日に浦和駅前で、5月に改定された食料・農業・農村基本法に基づく策定される来年度からの「基本計画」にむけ、食料自給率向上やコメ不足解消・安定供給、農業従事者が営農を続けられる環境整備などを求めて国会あての署名宣伝行動にとりくみました。

生産者団体の農民連をはじめ、

新婦人、伝統食の会などから11人が参加しました。食健連会長のほか、生産者、消費者それぞれ立場で5人がリレートークで賛同を呼びかけ、多くの方が応援してくれ1時間余りの宣伝で84筆の署名が集まりました。18日には食健連主催で農水省交渉、シンポジウムがとりくまれています。



オンラインで制度説明

ものの若手の役員に「とてもよかった」と好評でした。

第3回は1月16日、3月末に満期を迎えるセット共済の継続に関する質疑・実践交流を行います。



宣伝ではお米を配布

コープみらい財団奨学金のご案内

埼玉連がすすめる運動のひとつの「奨学金」の拡充を求めるとり

くみについて、昨年に続きコープみらい財団が扱う給付型の奨学金を紹介いたします。

コープみらい財団では、2018年度から、コープみらいの組合員でひとり親家庭などの世帯に対して、月1万円の奨学金(返済不要)の支給を行っています。

みなさんの協力で、応援サポーターが25000人を超えたおかげで、2024年度については700人(全体1658人)に支給し、奨学生や保護者から大変喜ば

れています。

2025年度の奨学生募集が2月から開始されるため、各加盟組織に案内チラシを送付させてもらいました。組合員や家族で該当する人もいると思いますので、仲間への周知をお願いします。

また、応援サポーターも随時募集しています。一口100円から登録できます。こちらへの協力もよろしく願います。

募集の対象等詳しい内容についてはチラシまたはコープみらい財団HP(ホームページ)を参照してください。

2025年度 コープみらい 奨学生 募集

返済不要

ひとり親家庭の高校生を対象とした給付型奨学金

申し込み

奨学金申請書は必要書類を締切日までに下記宛先まで郵送にて届けてください。

新入学生と在校生で提出。ただ(書類は異なりますのでご注意ください)。

申請書等は、各財団ホームページからダウンロードできます。

ダウンロードできない場合は、各財団まで資料請求してください。提出書類についての詳しい案内は、チラシの裏面をご覧ください。

ご不明な点は、下記までお問い合わせください。

各財団ホームページの奨学金募集ページはこちらからご確認

申込者の資格

奨学金対象者と同居している保護者で前年の税込年収が400万円以下の方

※特別な事情のある場合はご確認ください

対象者

ひとり親(または両親がいなし)家庭の高校生(2025年4月に高校に入学される方と新2年3年生に通級される方で保護者がコープみらいの組合員)

募集人数

670名(予定)新入学生・在校生の合計人数です

奨学金

月額1万円(高校卒業まで)

締切日

2025年3月31日(必着)

お問い合わせ

一般財団法人 コープみらい社会活動財団

〒336-8523 さいたま市南区藤原1-1-1 協賛ビル10階(17時迄)

電話:048-789-7998 Email:miraizaidan@coopdeli.coop

(番号間違いないご注意ください)

コープみらい財団

〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1

2月の上映案内

2月の上映は「生きて、生きて、生きる。」です。

震災と原発事故から13年。時間を経てから発症する遅発性PTSDなど、こころの病が多発した福島で、喪失感や絶望に打ちのめされながらも日々を生きようとする人々と、それを支える医療従事者たちのドキュメンタリー映画です。

日時 2月25日(火)

埼玉会館小ホール

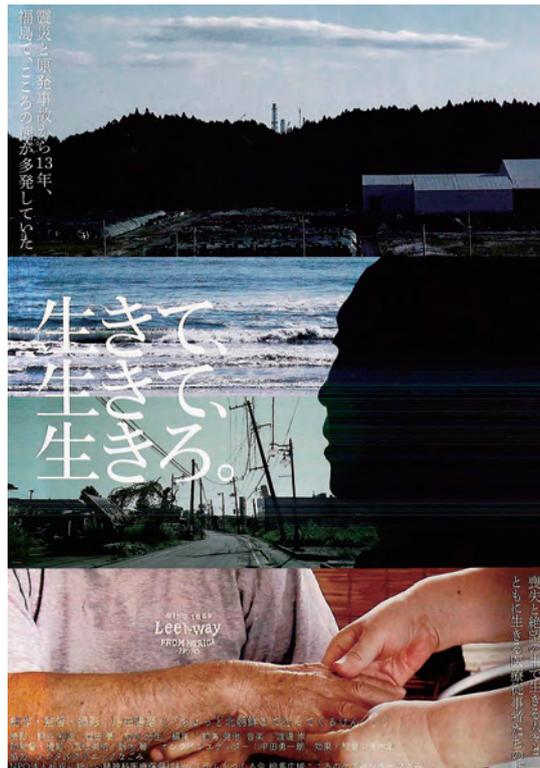
①10時30分

②14時

③18時30分

*埼玉共専用当日精算券のご利用の場合900円で鑑賞できます。

お問い合わせは、埼玉連、または埼玉映文協まで。



ろうきんの送金アプリ「CO TRA」

「ろうきん」が、送金サービス

「CO TRA (ことら)」を開始、ますます便利になります。

3つの送金メリット。①個人間送金が手数料無料(1回10万円まで)、②電話番号やメールアドレス宛にメッセージをつけて送金可能、③自宅や通勤時などいつでも送金可能。となります。

Bank payアプリのダウンロードと労金口座の登録で利用可能になります。

詳細は、労金こころHPをご覧ください。



フードバンク 第106便・107便

埼玉連12月のフードバンク活動は、埼玉土建越谷支部から保存用缶入りパン5キログラムが提供され、年の瀬の12月25日(水)に第106便として、フードバンク埼玉に届けました。

また、1月のフードバンク活動では、埼玉土建国保からギフトセット(味噌汁、スープ、ジュース、コーヒー各種)、インスタントコーヒー、カロリーメイトなど



フードバンク第106便



フードバンク第107便



17・5キログラム、SUからお茶、お茶菓子、ママレード、ドレッシング、パスタなど2・5キログラムが寄せられ、合計20キログラムを1月17日(金)に、第107便としてフードバンク埼玉に届けました。